

国際化学肥料ニュース (2021年9月)

肥料業界の2021年9月動態

- * 8月末のハリケーン「アイダ」の影響で、アメリカ CF 社の最大の尿素工場が影響され、生産停止となった。その影響で、9月第1週と第2週の FOB Nola の価格が 495 ドル/トンに上がり、2013年以来の最高価格となった。ブラジルの CFR 価格も 20~25 ドル/トン上がった。尿素不足を心配して、商社が尿素的の掻き集めに走り、北アフリカエジプトとアルジェリア産尿素的の9月の FOB 価格が 472 ドル/トンになり、約 25~32 ドルの値上げである。中国産尿素的の FOB 価格も4週間続きの下降傾向から反発して、5ドルほど上がった。

- * 噂されている8月下旬に行う予定のインドの尿素的国際入札が9月上旬になっても発表されていない。資金調達に問題を生じるため、9月中旬以降に延期される情報もある。但し、インド国内尿素的不足が明らかになり、その不足を補うために、より短い期間でより多くの尿素的を確保する必要がある可能性が高くなっている。新の尿素的国際入札が発表されれば、尿素的の国際相場が刺激され、更なる高値になる可能性がある。

- * 9月13日、アメリカの CF Industries 社はハリケーン「アイダ」の緊急対応計画の一環として8月28日に一時閉鎖されているルイジアナ州 Donaldsonville 工場のアンモニアプラントの再稼働を開始したと発表した。また、尿素的、硝酸、UAN プラントも順次に再開するという。Donaldsonville 工場は世界最大のアンモニアと尿素的工場で、年間生産能力がアンモニアトン 394 万トン、尿素的 365 万トン。生産再開の発表に伴い、尿素的の FOB Nola 価格が9月第1週の最高値より 35 ドル/トン以上下がっている。

- * アメリカの Incitec Pivot 社は5月末の再開以来、ハリケーン「アイダ」の緊急対応計画の一環として8月28日に一時閉鎖されているルイジアナ州 Waggaman 工場のアンモニアプラントを点検した結果、高圧電線網と電力ユーティリティに被害を受けたと判明し、再開には約4週間が必要と発表した。ハリケーンの被害により、収益に約 2800 万ドルの損失が発生するという。

- * ヨーロッパ天然ガスの記録的な高騰により、ノルウェーの Yara 社は9月下旬からヨーロッパのアンモニア生産量を約 40%削減する。これにより、尿素的、硝安など窒素肥料の生産量も同時に削減する。

* アメリカの CF Industries 社はヨーロッパの天然ガス価格の高騰によりイギリス **billingham** と **Ince** にあるアンモニアと窒素肥料プラントの操業を停止した。再開時期が未定という。

* 一部主要国の塩化加里輸出輸入データ

国名	期間	輸入量(万トン)	輸出量(万トン)	増減率
中国	2021年1～5月	404		19%
ブラジル	2021年7月	91.6		35%
インド	2021年7月	25.5		
アメリカ	2021年1～5月	617		15%
カナダ	2021年1～5月		917	3%
ベラルーシ	2021年1～4月		410	31%

上記データから主要塩化加里輸入国の輸入量が大幅に増えたことで、需給バランスがタイトとなり、塩化加里の国際相場が高騰する原因の一つとなっている。

* 9月第3週の尿素国際相場が先週に続き緩やかに上がった。特にヨーロッパ天然ガス価格の急速な上昇により、CF Industries 社のイギリス 2 工場を停止したことに続き、Yara も下旬からヨーロッパのアンモニア生産量を 40%削減すると発表した。また、ウクライナのメーカーも操業の削減または完全な停止を検討している。その結果、貿易商社はヨーロッパへの輸出量を確保するため、より高い価格で尿素を購入するようになった。エジプトの大粒尿素が FOB 価格を 50～60 ドル/トン引き上げに成功し、2012年5月以来最高値の FOB520 ドル/トンに達した。

アメリカもハリケーン「アイダ」の後遺症が残り、CF Industries 社がルイジアナ州の工場の生産再開を発表し、一時的に尿素の FOB 価格が下がったが、先週木曜(16日)に再び 550 ドル/トンで取引されている。

東半球では活発な取引が無く、尿素市場の参加者はインドの新たな尿素国際入札の発表を待ち続けて、これは来週になる可能性があるとのうわさがある。インドは世界最大の尿素輸入国で、国内の尿素供給がすでに逼迫しており、中国からの供給はインドにとって重要である。

* 中国雲南省政府は中央政府の省エネ指示に対応するため、黄燐メーカーに対して 2021年9～12月の月あたりの黄燐生産量が8月より90%削減するという命令を発した。雲南省の黄燐生産能力は中国全体の40%を占めて、90%減産となれば、中国の黄燐生産量が30%減少する見込みである。黄燐用途は約30%がりん酸一安やりん酸一加里、約26%はグリホサート(除草剤ラウンドアップの原料)で、需要が非常に旺盛である。その生

産削減命令が発表されると、中国国内の黄燐価格が 46%上昇し、6 万人民币元/トンになり、史上最高記録になった。多くのメーカーが新規受注を停止した。

* 中国税関の速報によれば、2021 年 8 月中国化学肥料輸出量 278 万トン、その内訳は尿素 26 万トン、硫安 65 万トン、DAP55 万トン、MAP56 万トン。1~8 月の化学肥料輸出量が 33.4%増の 2279 万トン、その内訳は尿素 39.5%増の 293 万トン、硫安 23.5%増の 633 万トン、DAP31.8%増の 475 万トン、MAP82.7%増の 314 万トン。化学肥料の国際相場高騰により輸出金額が 98.7%増の 76.71 億ドル。

一方、8 月中国化学肥料輸入量 50 万トン、その内訳は塩化加里 37 万トン、NPK 化成肥料 11 万トン。1~8 月の化学肥料輸入量が 4.7%減の 648 万トン、その内訳は塩化加里が 1.6%減の 544 万トン、NPK 化成肥料が 7.1%減の 88 万トン。

* 9 月 16 日に稼働を停止した CF Industries 社のイギリス **billingham** と **Ince** にある窒素肥料 2 工場はイギリス政府との協議により原料天然ガスが確保されるとして、9 月 23 日にアンモニア合成プラントを再開した。

* 最近ヨーロッパの天然ガス価格の急上昇により、ドイツの **BASF** 社はベルギー **Antwerp** 市とドイツの **Ludwigshafen** 市にある工場のアンモニア生産量を削減したと発表した。また、天然ガス価格の動向を継続的に監視し、それに応じてアンモニア生産を調整すると述べている。

* 9 月第 4 週は尿素国際相場の上昇傾向が諦める気配が見られず、2012 年 5 月以来の最高値を更新した。

東半球では、価格が過去数週間比較的安定していた後、今や西半球の価格に追いつき始めている。東南アジアでは、10 月と 11 月の出荷分として約 18 万トンの大粒尿素が販売され、マレーシア産尿素の最新 FOB 価格が 530 ドル/トンになり、9 月初頭より 100 ドルも高くなっている。インドの新しい尿素国際入札が発表されたが、主な供給先の中国では尿素生産が低水準であるため、国内価格は大幅に上昇して、政府は尿素やその他の肥料の輸出の際に品質検査を要求する新しい規則を立てて、輸出を阻止するための取り組みを強化している。多くのサプライヤーが輸出申請を取り下げた噂がある。中国の尿素輸出が期待できないため、中東産尿素への関心が高まり、中東尿素の FOB 価格も大幅に上昇している。

西半球では、ヨーロッパへの輸出需要が急増しているため、エジプト産尿素は 11 月の出荷分に FOB 600 ドル/トンを提示して、わずか 3 週間前より 160 ドル/トン以上上がった。

- * 中国は石炭と天然ガスなどエネルギー不足の影響で、停電が多発して、国内工業生産に悪影響を与えている。化学肥料産業も避けられず、9月に入ってから全国の尿素生産量が平常時より15~20%減の1日14万トン未満で続いている。尿素メーカー10社がある山東省は9月中旬に7社がメンテナンスの名目で生産を停止し、3社だけが稼働して、1日生産量が1万トン未満の最悪状態に陥る。アンモニア合成原料となる無煙炭は9月上旬の価格が去年同期より93%、天然ガスが126%高くなっている。
- * 9月21日、インドRCF社が今年6回目の尿素国際入札を発表した。10月1日締め切りと開札、購入量が不明、11月11日までに船積みという条件付きである。尿素国際相場が高騰し、中国政府も国内需要確保を最優先にして、尿素などの輸出を制限している現状では、落札価格が前回の509.5~516.95ドル/トンより高く、CFR550ドル/トン前後になるだろうと専門家が見ている。
- * 9月22日、中国政府の13部門が合同で国内化学肥料の安定供給と価格安定化を図る通達を出した。その中には初めて化学肥料の輸出輸入に必ず「法定検査」を経てから行うよう要求した。今まで、化学肥料輸出輸入の商品検査は普通の商業検査会社に依頼して、1日以内に完了することが慣例である。「法定検査」は国の検査機関または指定検査機関に依頼しなければならない。政府はその肥料を輸出させたくない場合は、恣意に検査期間を1週間または数週間に延ばすことが出来る。したがって、中国政府が化学肥料の輸出関税を復活しない代わりに「法定検査」を通じて、輸出をコントロールしようとする意図が見えている。
- * インドRCF社の尿素国際入札は10月1日開札した結果、12社が応札、応札数量194.4万トン。最低応札価格はAmber社のCFR東海岸665.6ドル/トン、Dreymoor社のCFR西海岸714ドル/トンである。7月22日に開札された前回の最低応札価格より159~197ドル/トン高くなっている。応札価格の高騰理由は主な供給先の中国からの輸出が制限される恐れがあるということである。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * エチオピア政府はモロッコのOCP社と合弁でエチオピアDire Dawaに化学肥料工場を建設する協定を締結した。この化学肥料工場が第1フェーズに24億ドルを投資して、合計生産能力250万トンの尿素、NPK/NPS化成肥料プラントを建設する。第2フェーズにはさらに13億ドルを投資し、最終生産能力を380万トンにする計画である。

- * ロシアの PJSC TOAZ (Togliattiazot) は建設中の第 3 尿素工場は進捗度が 65.7%に達し、2022 年に完成すると発表した。第 3 尿素工場は 2018 年 10 月から建設を始めて、2020 年末に完成する計画であるが、資金と新型コロナウイルスの影響で工事が遅れた。生産能力は尿素 2200 トン/日と設計される。
- * オーストラリアの Minbos Resources 社はアンゴラのアグリビジネス会社と合弁で NPK 肥料混合プラント (BB 肥料生産設備) と肥料流通事業会社を設立する覚書を締結した。当該 BB 肥料工場はアンゴラのマランジェ市に建設し、年間 25 万トン BB 肥料を製造する計画である。
- * アメリカの Pursell Agri-Tech LLC.はカナダのオンタリオ州 St. Thomas に硫黄コーティング肥料工場を建設する。年間生産能力 10 万トン、2021 年秋着工、2022 年 8 月完成する計画である。Pursell Agri-Tech 社はすでに 2018 年アメリカのアラバマ州に硫黄コーティング肥料工場を完成して、ジョージア州 Savannah にも同様の工場を建設する計画がある。

その他

- * アメリカの NE Nitro Geneva LLC (Nebraska Nitrogen) は、ネブラスカ州ジェノバにあるアンモニア工場とその関連設備を買収した。2017 年に完成したこのアンモニア工場は、年間最大 36,000 トンの窒素肥料を生産する能力がある。
- * 中国税関の速報によれば、2021 年 1~8 月の農作物輸入量が 34.8%増の 1 億 1453.6 万トン、2019 年の年間輸入量を超えた。輸入量の内、大豆が 6709.9 万トンで、58.65%を占めているが、トウモロコシ、小麦とコメの輸入量も増加している。特にトウモロコシの輸入量が昨年より倍以上が増加し、年間 2600 万トン以上輸入される見込みである。
- * 8 月 27 日、BHP 社はカナダサスカチュワン州にある Jansen 加里プロジェクトのフェーズ 1 に 57 億ドルの追加投資を正式に承認した。当該プロジェクトは 2011 年に立ち上がり、最初は 2015 年に稼働する予定であるが、加里市場の低迷により、投資の決定が決められず、延び延びになった。建設は 6 年、立ち上がるのは 2 年で、最初稼働は 2027 年となる見込みである。なお、フェーズ 1 の年間生産能力は 435 万トン、フェーズ 2 を含むと 800 万トンになる計画である。
- * Harvest Minerals 社は、ブラジルの Arapua 肥料プロジェクトに必要なすべての電力を供給する太陽光発電施設の建設を開始した。この太陽光発電施設は出力 445Wp の 622

個のソーラーモジュールで構成され、最大出力 276.79 キロワットである。5 か月以内に完成と稼働する計画である。